

第 1 回目黒区みどりの基本計画懇話会 会議録

日 時	平成 27 年 6 月 17 日（水） 午後 6 時 30 分から
出席者	<p>（委員）</p> <p>甲斐 徹郎（関東学院大学客員教授） 金子 忠一（東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授） 澤田 みどり（恵泉女学園大学人間社会学部社会園芸学科准教授） 岡田 音次郎（目黒区農業振興運営協議会会長） 熊澤 祐子（碑文谷公園くらぶ代表） 佐藤 留美（NPO birth 事務局長） 市田 淳子（公募区民） 豊田 恭子（公募区民） 宮尾 三郎（公募区民）</p> <p>（オブザーバー）</p> <p>一言 太郎（国土交通省都市局 まちづくり推進課）</p> <p>（事務局）</p> <p>目黒区</p>
場 所	目黒区総合庁舎本館 地下 1 階第 15・16 会議室
議 事	<p>1 委嘱状交付</p> <p>（1）委嘱状交付</p> <p>（2）部長あいさつ</p> <p>（3）事務局紹介</p> <p>2 開会</p> <p>（1）座長・副座長の選出</p> <p>（2）座長あいさつ</p> <p>（3）委員自己紹介</p> <p>座長</p> <p>これまでも様々な自治体のみどりの基本計画のお手伝いをさせていただいている。目黒区は色々な形で先進的な取り組みをしている自治体でもあるので、委員の皆様にもご協力いただきながらみどりの基本計画を策定していければと考えている。</p> <p>副座長</p> <p>私は都内の公園等の管理に携わっているが、単なる管理ではなくて、コミュニティが生まれてみどりの価値が広がり、まちの価値になっていくといった、地域づくりにつながるようなみどりづくりに取り組んでいる。さらに危機的な状況にある民地</p>

のみどりをどうやって守っていったらよいかということ在地権者の方、市民の方と一緒に力を合わせて考えていくというような活動をしている。目黒区に足を運んだのは久しぶりだったが、非常に多様なみどりがあって驚いた。そこをどうやって守っていくか方針を決めていくということは今後の大きな節目になると思う。

委員

目黒区では、大きな家が小分けになっていき、たくさんの木が生えていた風景がなくなってしまうことが気に病んでいる。マンションの緑地を確保するだけでなく、一戸建ての家でも緑を必ず確保するというのをつくってほしい。公園等ももっと整備してほしいし、「めぐろのいきもの80選」の本は私もすごく大好きでどんどん緑を増やしていただきたい。

委員

私は緑を暮らしの中でどのように活かすか、実践的なことをやっている立場である。樹齢150年のけやきの木が5本残っている屋敷林がある場所に、12世帯の家族を集めて森をつくって暮らしましょうと、コーポラティブという方法で緑を活かして快適になるということを目指した環境共生住宅をつくった。緑を気持ち良く享受できれば誰もが質の高い生活を送れるということ、生活者の視点で考えている。

委員

目黒区に公園活動登録団体というシステムができた時に、地元の公園は地元の人間で守っていこうよという方たちが集まった。園芸的な花を植えるだけでなく、自然のままにあるものを活かし管理を行っている。樹木に対する何か大きなことについては、やはり区と相談しないといけない。木も元気がなくなってきているので考えていきたい。

委員

目黒区は非常に緑が多く、それらはここにおられる先生並びに行政の方、区民一人一人の今までの努力のためだと思う。その努力を活かせるようなかたちでより一層緑が増えるよう、少しでも役に立てばと思う。

委員

地元農家には大きなけやきやかしの木などたくさん木があるが、その人たちはそのよさにあまり気づいていないように思う。周りに迷惑がかかると思っているかもしれないが私から見ると素晴らしい。そういった意識や、まわりの人達の理解が必要ではないかと思う。

委員

園芸療法の普及と実践者育成、実践活動をしている。病院や福祉施設で高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者の方達と植物を通して自立支援、生きがいづくり、健康の維持向上を行っている。地域の高齢者の認知症予防、介護予防で個人宅の畑をお借りして、その管理をしながらそこで高齢者の方と活動を続けている。そういうことが目黒区の中でお役に立てばと思う。

委員

ボランティアで日本自然保護協会の自然観察指導員を 20 年弱やっているほか、バードピアに取り組んでいる。バードピアとは、鳥をはじめとした全ての生き物が棲みやすい場所を提供していくことにより、人間も生き物もできるだけ心地よく住める社会をつくっていききたいという普及活動である。この経験などをこの懇話会でも活かしていければよいと思っている。

オブザーバー

中目黒公園ができた時にボランティアに参加し、その後、駒場野公園の自然観察舎のスタッフを 4 年やらせていただいた。また、自由が丘でまちづくりにも携っていた。今回は業界を代表する先生方と何十年も住んでいらっしゃる区民の皆さまの中に私のような若輩者が入ってよいのか緊張しているが、恩返しをできればと思っている。

(4) 会議の公開等の取扱いについて

会議の公開等の取扱いについて確認した。

3 議事

(1) 目黒区みどりの基本計画改定について

事務局より資料 1 と資料 2 について説明が行われた。

(2) 目黒区のみどりの現状と課題について

事務局より資料 3 と資料 4 について説明が行われた。

座長 不明な点はあるか。

副座長 目黒区の少子高齢化の進行状況はどのようになっているか。また、事業者との連携について、何かこれまでの実績はあるか。

事務局 最近の動向としては、人口が増加し、子どもも増えている。人口が増えているため、相対的に一人当たり公園面積は減っている。また、保育園の園外保育による公園利用が増えている。高齢者の割合は比較的低いと認識している。

事業者連携についてはまだ具体的な取組みは実施できていない。しか

委員	<p>し、商店街の中で、たとえば自由が丘では森林化計画を作り、事業者と協力してみどりを増やす取組みをしている。</p> <p>資料3のP.9に区民が優先して行ってほしい施策の上位に高齢者福祉、防犯、防災、子育て支援が挙げられている。今の目黒区は質の高いみどりを目指していると思うが、空間的に増やすことも必要だが、</p> <p>　　今後は子育て世代、児童・生徒、高齢者が一緒になって身近なみどりを増やしていける場所が必要なのではないかと。一人ひとりの区民が参加できるように、身近なみどりを増やす取組みを発表する場を設けるなど、インセンティブを与える仕組みもあるとよいのではないかと。一人ひとりの区民が身近なみどりを増やせる場づくりが重要だと考えており、基本計画ではそういうことに対する支援について考えたい。</p>
座長	<p>資料3のP.8の表の右側の課題に記載されている内容は、どういう位置づけで整理されたものか。現行計画で施策として掲げたが実現していなかったということか。</p>
事務局	<p>区の内部で実績を整理した際に、施策が進まなかった要因を考え、課題を整理している。</p> <p>現行のみどりの基本計画に基づいて、主な実績に記載していることに取り組んできた。取組みを進めていくにあたっての課題を整理している。</p>
座長	<p>行政の担当者が整理している課題となっている。</p>
(3) 目黒区の目指すみどりについて	
座長	<p>資料3のP.13は今回の計画改定のポイントが書かれている。委員それぞれの目線で、さらに付け加えた方がよいと思う視点やご意見をいただきたい。ご意見をもとに、資料4の目黒区が目指すみどりの質についても議論していきたい。</p>
委員	<p>街路樹は区が管理しているのか。電柱が地下化された地域は木もなくなってしまったように感じる。みどりが感じられなくなってしまったところにみどりを増やす取組みをしてはどうか。</p>
委員	<p>区民一人ひとりがすぐに取り組めることに対する支援を考えてほしい。例えば歩道にプランターを置くことは庁内で調整が取れれば、区民の賛同は得やすいと考えている。</p>
委員	<p>みどりの質について考えることも重要だと思うが、量を増やす視点も重要だと考えている。エコロジカルネットワークによって、例えば生き物が移動できるように、みどりがつながりながら増えていくとよいと考えている。また、みどりを増やす際には、生物多様性という視点</p>

	<p>で、人間との関わりの中で生態系サービスとして考えなくてはいけない。目黒区の文化を継承していけるようなみどりを増やすことを考えていきたい。</p>
委員	<p>畑などのみどりをどう残していくかを考えていきたい。大規模な土地を所有している個人をフォローしていく仕組みも考えていくべきではないか。今ある農地をどのように保全していくかということも考えていきたい。</p>
委員	<p>生物多様性という視点のみどりを考えていきたい。例えば、目黒区立鷹番小学校でビオトープを作ったことで鳥が来るようになったことを考えると、みどりをつなぐことは重要だと感じている。また、今あるみどりが朽ちていく状況が深刻化しているので、保全管理の取組みをしっかりとっていく必要があると感じている。</p>
副座長	<p>様々な立場の委員もいるので、区民が住み続けたいと感じているまちということを考えていきたい。昨年度の世論調査でも目黒区への居住理由で「緑の多い落ち着いた住環境だから」が3番目にあがっているということは重要なポイントだと感じている。</p>
事務局	<p>23 区内でもみどりの状況は様々だが、目黒区は現状の緑被率と比べて「みどりが豊かである」という区民の意識は高いと感じている。</p>
副座長	<p>目黒区内には大きなケヤキが残っていたり社寺林が点在していたり、自由が丘で事業者によるみどりの取組みが実施されていたりと、とても意識が高い地域だと感じている。区民が住み続けたいと思える住環境を目指していくにあたって、みどりに新しい価値がつけられるとよいと感じている。今はまちづくりの中でみどりに関わっていける時代であると考えている。触れずに残していくべきみどりもあるが、適正に触れていくことで、人の生活とかい離ないように配慮していく必要があると考えている。生活の中で必要な自然、必要なみどりやオープンスペースとは何かということ突き詰めて、また、それが目黒区ならではのみどりと何かということを考え、みどりの独自性や新たな価値を見出していくことが、重要であると考えている。</p>
委員	<p>また、与えられるみどりではなくて、区民自らが使いきる、活かすきるという積極的な姿勢、雰囲気づくりができるとうよいと考えている。区民も一括りで捉えずに計画づくりに取り組んでいけるとよいと考えている。例えば海外では植物園で園芸療法士を雇い、在宅、福祉施設に入っている人、障害を持っていて足を運べない人に対して、市が送迎してみどりを楽しんでもらおうという取組み等を実施している自治体もある。ソフトの部分で他にはないみどりの取組みを今後 10 年間増やしていくことを区の独自性として掲げてよいのではないかと。</p>

	<p>委員 みどりを増やすことに対して後ろ向きの人もある。特に、総論賛成各論反対という人がいる。全ての区民がみどりを増やす役割を果たすことを目指したみどり環境の創造について以下の5点を考えている。</p> <p>1. みどり環境創出の理想形『みどりのコモン化構想』</p> <p>街路、公園、民有空地をみどりのコモンと捉えて、区民一人ひとりが日常的に活用することで、自らの暮らしの質を高めることを意識できるとよい。</p> <p>2. みどりのコモンが共用する価値</p> <p>みどりのコモンに連なるものは以下の3つの価値をそこから享受する</p> <p>景観価値：奥行きを成す質の高い景観を享受する 気候価値：みどりが生み出す良好な微気候を享受する 利用価値：連続したコモンを生活行為の拡張領域としてその環境を享受する</p> <p>3. みどりのコモンの成立条件</p> <p>みどりのコモンの創出とその質の維持管理に主体的に関わるコミュニティは醸成されること、自治体と地域のコミュニティとが連携して協働でみどりのコモンを創造しあうことが成立条件となる。</p> <p>4. みどりのコモンを創造する地域主体形成のプロセス</p> <p>創造的な地域主体を生み出すためには、以下の3つのプロセスが回り続ける動的なスパイラルが必要となる。</p> <p>個の主体化：個人が、みどりのコモンを生活の質向上のために活用する主体となる（自分のこと化） 相互触発：主体化した個同士がコモンで出会い、コモンを使いこなす行為の中で、相互に触発されあい、コモン活用意欲が高まる 主体間連携：自分たちの生活の質を向上させるために、より質の高いみどりのコモンの創造と維持を、自分たちにとっての共通の利益として認識し、相互に結託しあうことで、地域主体が形成される（地域コミュニティ）</p> <p>5. 呼び水としての「使えるコモン」の創出</p> <p>既存の公共緑地の使われ方の質をあげること。地域の人たちが生活拡張領域として、積極的に関与し、活用しあい、相互触発が始まる質の高い空間性とその運営システムを協働で確立することがポイントとなる。</p> <p>委員 区民一人ひとりがみどりにふれることで喜びを感じられるというこ</p>
--	--

	<p>とを伝えていけるとよいと感じている。</p> <p>委員 計画に抑揚をつけて、上段でこのような内容を言うてしまうくらいでよいと考えている。</p> <p>オブザーバー みどりの基本計画は、単に行政の行うことを書く計画ではなく、土地利用計画やまちづくりの戦略になるべきだと考えている。今日の資料にはその視点が少し足りないと感じた。</p> <p>どういふまちを目指していくかということを示していくことがみどりの基本計画の役割となるので、目黒区の都市計画マスタープラン等の他の計画から、みどりに直接関わることのみを整理すれば足りるといふものではない。都市計画マスタープランにはすみやすい、くらしやすい、個性ある、自然と触れ合えるというビジョンが示されているが、みどりはこのすべてに関わってくると考えていくべきである。</p> <p>例えばすみやすいという観点では、従来の計画論で行われていた拠点を定め、その間の線を引くという計画ではなく、現に住宅地にまんべんなく広がっているみどり(基質・マトリックス)をどうしていくのかということが今日的な課題である。このことは生物多様性の観点からも重要である。</p> <p>もう一つ重要な論点として、人を呼び込む、来街者の観点がある。周辺のまちが再開発される中で、来街者を呼び込み、住みたいと思ってもらって居住者を増やすことにもつながるようなみどりという観点で考えていかなければいけないと感じている。みどりを活かすということの中に、人をひきつけるみどりのあり方を考えなければならない。</p> <p>また、公園の整備や再整備を検討するためには、住区単位での人口動態の将来像を把握する必要がある。</p> <p>(4) 議事内容のまとめ</p> <p>座長 基本計画改定に向けて意見があれば、資料5をご活用いただきたい。座長の立場からみなさんのご意見を聞いて、資料3のP.13の改定の視点の書き方を少し変更した方がよいと感じた。例えば、「みどりの新しい価値を生み出す」「自分のこと化する」「まちづくり戦略として展開する計画とする」といった視点で、ここにあげられた課題にどう取り組んでいくかを、フィルターのようなものとして捉えてはどうか。課題から集約されるものではなく、これからの計画をどういった観点で見直すのか、また「自分のこと化」するのかということが、この改定の視点書かれるとよいのではないか。中身の議論については、各委員の意見を参考に事務局で考えてほしい。</p> <p>本日の議論の論点はホワイトボードにも整理しているので、確認して</p>
--	--

	<p>ほしい。</p> <p>事務局 現行のみどりの基本計画に基づいて、主な実績に記載していることに多方面からご議論いただきお礼申し上げます。事務局で気付かなかったご指摘があり、振り返りのよい機会となった。今日の議論はまとめまでいくものではないので、議事録を作成する中で、整理させていただければと思う。</p> <p>区民に好きになってもらえるみどりを増やしていくという視点は特に重要だと感じた。</p> <p>4 第2回 目黒区みどりの基本計画懇話会の日程について 協議の結果、次回懇話会は8月7日18時30分から20時00分までの開催となった。</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---